

ボラセンまつり

「ボラセンまつり」は、今年度から始まった新しい取り組みの一つである。今年度のボランティアセンターのキーワード「つなぐ」にちなみ、学生を、団体を、そして地域をボランティアセンターが「つなぐ」ことによって、学生が新たなフィールドや活動へ一歩を踏み出すことができる、その一翼を担うものとして位置づけられている。今年度ボランティアセンターが掲げた活動目標の中では、「『つなぐ』回路をさらに太く多彩にするための『おまつり』」とされている。

6月に横浜校舎で行われる大学祭「戸塚まつり」にあわせ、二部構成の4企画を開催した。

第一部は、ボランティアファンド 学生チャレンジ賞の応募企画発表会開催に合わせ、テーマを「環境」と設定した。身近な環境問題を学生の日線で、活動家の目線、そして地域の日線で考えてもらいながら、小さい子どもから学生・大人まで皆が「おまつり」の場を共有してもらうことができればという思いからである。コンセプトを「環境問題 見よう！知ろう！やってみよう！」と位置づけ、3企画を実施した。

第一に「ボランティアファンド 学生チャレンジ賞応募企画発表会」である。今年度から新しく始まった「ボランティアファンド 学生チャレンジ賞」¹の公開プレゼンテーションの場として企画された。環境問題について、まずは学生がどういう視点で考え、行動に移そうとしているのかを「知る」機会として位置づけた。応募のあった3企画に関して、学生だけではなく教職員・地域の方や環境問題に長けている方に向けて発表することで、学生とはまた違った意見や感想などを聞くことができる機会となり、学生にはいい刺激になったようである。企画が採用された際には、大学から「奨励金」が渡されるため、お金をもらって活動することの責任を公開プレゼンテーションの場から味わってほしいという意図もあった。この公開プレゼンテーションに基づいて後日審査が行われ、発表した3企画に「奨励金」が授与された。

第二の企画は、「ソーラーカーから世界が分かる！」と題して、ソーラーカーやソーラーグッズを見て体験しながら環境問題を考えてもらうプログラムである。子どもから大人まで、皆が分かりやすく環境問題を考えるには、視覚的にもインパクトがあり、さらに体験もできるものとして、意外に身近にある「ソーラー」関連が適しているのではないかと考えた。NPO 法人ソフトエネルギープロジェクトにご協力いただき、ソーラーカーやソーラーグッズを展示した。ソーラーカーは試乗することができ、長蛇の列を作るほどの人気となった。また、ソーラーグッズもユニークなものが数多くなれば、足を止める人が目立った。また、ボランティアセンター内で、ソフトエネルギープロジェクトの佐藤一子理事長による講演も開催し、地球温暖化やソーラー／風力発電の話など多岐にわたってお話いただいた。環境問題

¹詳しくは本書「I. 2007年度活動報告 明学グッズ・ボランティアファンド／学生チャレンジ賞」を参照。

の先頭を走る専門家と同じ場を共有することで、学生とは違う観点で環境問題を「知る」ことができたのではないか。

第三に、地球にやさしい環境を自分の手で作ろうをキャッチフレーズに「みんなで植樹！」企画を実施した。国連環境計画の「10億本植樹キャンペーン」と横浜市の「150万本植樹運動」の活動に賛同し、ツツジ50本の植樹を行った。(財)横浜市緑の協会にツツジの苗木のご協力をいただき、実施することができた。

園芸や花に関して、社会福祉法人「開く会」共働舎²の萩原達也施設長を講師に迎え、環境問題にからめてお話をいただいた後、共働舎の職員と利用者とともに植樹を行った。障害のある人もない人も、子どもも大人も、一緒にツツジの植樹の作業を行うことで、新たなコミュニケーションが生まれ、「つながった」瞬間だった。植樹作業後には、参加者同士、話に花が咲き、ツツジの苗木を囲んで暖かい雰囲気が見られた。

また、センター内では相模川よこはま協議会のご協力で、よこはまの水に関するパネル展示を行った。植樹と水の関係も深いものがあり、水の問題も考えてもらうためである。これらの企画に参加した方には、横浜市水道局のご協力により災害時に活躍する水缶や水道局のキャラクター「はまピョン」のぬいぐるみをプレゼントした。

第二部は、場所を倉田コミュニティハウス³に移動し交流会を開催した。「木に囲まれた交流会」と題し、ボラセンまつり参加者やボランティアセンターの学生スタッフ、関係者が40名ほど集まり、アットホームな交流会となった。学外会場で開催することで地域や施設とのつながりも作ることができた。次回以降は、交流会に様々な方が集まり、交流会の中に新たな出会いがあるような場作りにつとめたい。

ボラセンまつりを通して、「五感を使って環境問題を学び、様々な方とつながりを作る」経験を学生に提供できたと思っている。ボラセンまつりに参加する意義は、ただ体験、経験するだけではなく、そこから何を「学ぶ」か、そして何を自ら「得る」ことができるかであると考えている。今回ボラセンまつりに参加して得たものを、自分たちの次の活動に活かしてもらいたいと思う。学生の参加者が想定より少なかったが、第2回開催時には、学生をもっと巻き込んだ「学び」と「楽しみ」の場作りを目指していき、さらなる「つなぐ」しかけを行っていきたい。

(山下)

² 横浜市泉区にある知的障害者の通所授産施設。園芸・パン・陶芸などの製作・販売を行っている。

³ 明治学院大学横浜校舎近くにあるコミュニティ施設。学校の空き教室を使ってコミュニティハウスを設けているところが多い中、この施設は独立した建物であり、横浜市の水源地である山梨県道志村の間伐材を使用している。社会福祉法人開く会が指定管理者制度で運営・管理を行っている。